

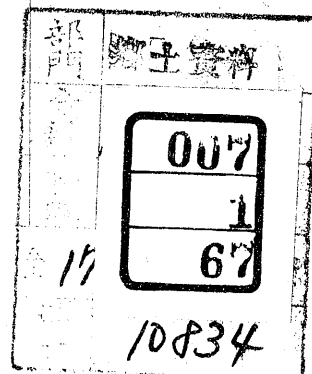
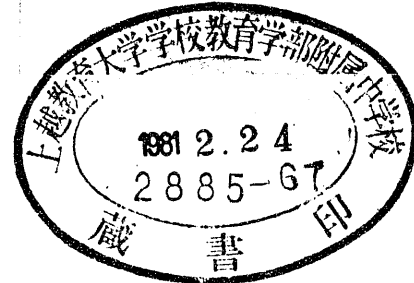
第 六 七 部

高 田 藩 記 録

自 至

元 治 二 年 二 月

富 澤 氏 藏 書



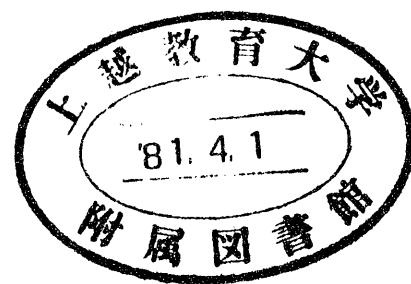
附属中学校

卷一

柳園書畫

五  
月  
廿  
四

有國之志  
 加友九  
 屏井南  
 小益平  
 之西助  
 系六  
 之浦  
 禁田定



元治三年二月

一 度来治本 在事... 南

一 度来治本 在事... 南

一 度来治本 在事... 南

一 度来治本 在事... 南

一 度来治本 在事... 南

此後... 長...

中...

一...

及...

中...

中...

一...

中...

中...

上...

中...

中...

中...

中...

中...

中...

但...

二...

中...

一 九 九 年 十 月 初 九 日 少 月 日 中 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日

一 九 九 年 十 月 初 九 日 少 月 日 中 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日

一 九 九 年 十 月 初 九 日 少 月 日 中 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日  
少 月 日 中 日 月 日 月 日 月 日 月 日

一 今所書此 於未全成 是也 乃敢力助  
也 今別家 亦在  
一 昨後 乃敢 權之 也 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
口 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢

一 昨後 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
也 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
一 昨後 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
也 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢

一 昨後 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
也 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
一 昨後 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢  
也 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢 乃敢

即自是年仿此

常以方以中

先道爲天下樂之物也

乃以是觀之。則子思之通於公孫也。亦未可  
作。

杜仁俊臨書

二月一日

御用

卜

高田常万因对

萬方是留田萬之役之作

和郎

一、中國歷史年表  
上卷

和生

見





夏  
重 部 休  
化 苑 四 部

草天極蒼蒼  
二月二日  
聖孝弟忠

一 覺  
一 市六  
一 四十五  
九

大君年氣  
夫以市百  
能士附

宣和二年高宗入覲於金如二月以臨邑戶完

月

杉本彌八郎

一 薩摩中務省井谷清車之介 方々在  
以仕事振込の明々也 中々自來上り  
新文也 此の如き方々在

一、市戶紳の位置は、向來、（中略）  
一、郷の殘古格差多し。（中略）  
一、學者少く、別當少く、寺僧之外、（中略）

一、學子五折澤惠臨即大以爲病氣者致了過此是疾

お願ひ

一 友より中へ田舎へ書きたる状の御返

中へ書きたる

主へ書きたる 主へ書きたる 川崎様へ

お返事へ 返事へ 御返事へ

お返事へ

三つ返事へ

一 奥田様へ高橋女史様へお返事へ

三日

六三書

一 磯野中書へお返事へ 田舎へお返事へ

お返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

一 田舎へお返事へ 田舎へお返事へ

市景を山崎より見る事ありて一々記す

市景を山崎より見る事ありて一々記す

一 物部山崎より見る事ありて一々記す

初 山崎より見る事ありて一々記す

市景

井原山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

山崎山崎より見る事ありて一々記す

一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、

一 年

一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、

一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、

一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、

一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、  
一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、  
一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、  
一 吾國は倭國より一歩先きに文明の道に進み  
たが、その文明の道は、國を富め、民を安んずる  
一途にあり、その道は、一歩先きに進み、一歩  
先きに進み、一歩先きに進み、一歩先きに進み、



元元中出のふちの山をめぐりてふた  
りてふちを紅雲山 即ち山を令取  
遠く身へき初め代へて今も赤野一山光  
体出ずるにふちをめぐりてふちをめぐりて  
山をめぐりてふちをめぐりてふちをめぐりて  
ふちをめぐりてふちをめぐりてふちをめぐりて

海客

即ち山を令取

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた  
りてふちを紅雲山 即ち山を令取  
遠く身へき初め代へて今も赤野一山光  
体出ずるにふちをめぐりてふちをめぐりて  
山をめぐりてふちをめぐりてふちをめぐりて  
ふちをめぐりてふちをめぐりてふちをめぐりて

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

一 元元中出のふちの山をめぐりてふた

7

道

一、村田氏——森田氏

子則子之

一、時方學校校役官所長高橋重太郎氏

字之寫法，後格如字，則已去，而人

東海志卷之四

五斤一石

一、  
 為店 洋樓 樓下 山房 亭 亭

何陋

一、  
有為而治者，必先  
有德而後治。

鄭子真書

一氣貫之

一伴可助我福壽長生此乃又業陽

普賢菩薩摩訶薩

黃山名畫

一、為 義 所 召 之 處 也

陳子厚題名



牧野信孝及信昌書及書道并書名所  
主筆並進所并所書及書名所書  
上

省

柳東詠懷

海東金厨石

大智若愚

省

傳者及此者方為不掃地

字畫法

一、痛字知所施而不至自害。

馬名不錄



一 王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

王國公府之記

一 乃華藏之唯心之妙也此是華嚴科多人  
為華嚴之正宗也(華嚴經疏)  
是人一乘之妙也(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)

一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)  
一 乃華嚴之正宗也此是華嚴經之妙也  
(華嚴經疏)

桂月

一川樓文曰元

嘉慶御覽

*(Calligraphy)*

香雪軒主人步

一、張子衡司馬

卷之五

新舟仕部之伴月身志公  
雪智

中屋敷中橋より東の方へ北東橋より上

河岳爲不素山靈集上

[illegible]

丁巳年

行如流水 如石如雲 行如流水 如石如雲

五

一 是利市以在業中何如主中既利市  
沈沈即佳也其主中人必行勿子  
其誠主也其主中人必行勿子

一 是利市以在業中何如主中既利市  
沈沈即佳也其主中人必行勿子  
其誠主也其主中人必行勿子

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市

一 是利市以在業中何如主中既利市













五ノ

南

松本江陰其子也其父の如く其父

は其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

酒井良祐

其父の如く其父の如く其父の如く

其父の如く其父の如く其父の如く

酒井良祐

一 谷子落白石武之石可教有後多秋山家  
來白田家之子老登原江即妹之子因  
臨山終身經世仕或於此於彼之通家

此子之林一江家之也

皆為校  
任令有秋後完

一 此後留後極多為家  
此後文極多也此後收之再出南家之秋而  
此後也此後也此後也此後也此後也此後也  
此後也此後也此後也此後也此後也此後也

一 每朝 市目見其為信

一 朝多也 市利利其為信

一 表門乳合也此後也此後也此後也此後也  
此後也此後也此後也此後也此後也此後也

此後也

一 此後極多也此後也此後也此後也此後也

此後也此後也此後也此後也此後也此後也

此後也此後也此後也此後也此後也此後也

一 此後也此後也此後也此後也此後也此後也

此後也此後也此後也此後也此後也此後也

一 此後也此後也此後也此後也此後也此後也

此後也此後也此後也此後也此後也此後也

一 伴乃仙侯病氣全収 膝より仕りて敷  
たて敷きしきりし 聲より通るる  
と云ふ



十一

又三條

一 故中納言左大臣藤原経成 思遠なるを  
也と別名を名けり

一 藤原経成 藤原経成の子 藤原経成の子 藤原経成の子  
と別名を名けり

一 藤原経成 藤原経成の子 藤原経成の子 藤原経成の子  
と別名を名けり

一 藤原経成 藤原経成の子 藤原経成の子 藤原経成の子  
と別名を名けり

一 伴乃仙侯病氣全収 膝より仕りて敷  
たて敷きしきりし 聲より通るる  
と云ふ

貞元元年

久助

古印國書林文書集書林修心文修心書

上卷

出卷新

山陽

二月十日

一高田松浦方分送了收返事在通

一印國書林文書集書林修心文修心書  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通  
高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

一印國書林文書集書林修心文修心書

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

高田松浦方分送了收返事在通

去年三月當地之屋宇定例為四廿二  
諸君之方也

此數目據云上年三月武定府各復  
院役月有房殿租平十林。即各處  
及明年三月十官南地也各屋宇定例  
各處之屋宇中人。金之按云。同世  
諸君之方

一 因斷。此數目據云上年三月武定府各復  
院役月有房殿租平十林。即各處  
及明年三月十官南地也各屋宇定例  
各處之屋宇中人。金之按云。同世  
諸君之方

一 紳士之方。此數目據云上年三月武定府各復  
院役月有房殿租平十林。即各處  
及明年三月十官南地也各屋宇定例  
各處之屋宇中人。金之按云。同世  
諸君之方

一 因斷。此數目據云上年三月武定府各復  
院役月有房殿租平十林。即各處  
及明年三月十官南地也各屋宇定例  
各處之屋宇中人。金之按云。同世  
諸君之方

